

令和2年度
事業計画書

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

夢を育み、未来を創る街

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構

令和2年度事業計画書 目次

- 1 令和2年度事業計画の基本的な考え方

- 2 事業活動の内容
 - (ア) 技術シーズの事業化支援
 - ① 文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

 - (イ) プラットフォーム（共創場）の構築
 - ① つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援
 - ② つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催
 - ③ 交流の場の提供

 - (ウ) 特区プロジェクトに対する横断的な支援及びその他の活動
 - ① 特区プロジェクトの推進による産業化支援
 - ② つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）の運営
 - ③ つくば国際戦略総合特区成果報告会の開催
 - ④ プロジェクトに関する広報活動

 - (エ) 情報発信活動
 - ① 各種展示会等への参加
 - ② 広報媒体の強化
 - ③ 視察等のコーディネート

- 3 会員の勧誘活動の推進

- 4 法人の運営に関する事項

1 令和2年度事業計画の基本的な考え方

一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構（以下、「TGI」という。）は、平成26年3月に一般社団法人化され、今年度で7年目を迎えました。

これまで、TGIはつくば発のイノベーション創出のための基盤創りを目指し、茨城県、つくば市、筑波大学、ほか会員各位のご支援を頂き、連携推進強化のための各種イベント、会合、情報発信及び支援プログラムの実施、並びにつくば国際戦略総合特区プロジェクトの運営支援等の活動に取り組んで参りました。

平成28年度に採択された文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」においては、これまでの4年間において、事業化プロジェクト「世界中の眠りに悩む人々への睡眠計測検査サービス事業」の成果が発展し、筑波大学発ベンチャーとして株式会社 S'UIMIN が設立され、事業が展開されております。また、平成30年度には同ベンチャーが9.1億円の資金調達を実施する等、順調に事業の目標を達成しております。さらに、令和元年度から新たな事業化プロジェクト「グラフェンスーパーキャパシタによるIoH向け安全蓄電デバイスの事業化」をスタートさせる等、研究成果を活用した地域産業の絶え間ない創出に向けた取組を推進して参りました。

つくば国際戦略総合特区事業につきましては、茨城県とつくば市と連携しながら、平成29年度から第2期の特区プロジェクト計画を引き続き推進しております。TGIにおいても、特区プロジェクトに対する国の支援制度（規制緩和、税制支援措置等）の活用促進や事業の運営支援を積極的に行なって参りました。

令和2年度は、文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」、及び第2期つくば国際戦略総合特区の両事業が終了いたします。両事業の目標達成に向けて着実に事業を推進するとともに、これまでの活動で築き上げた地域イノベーション創出の中核機関としての体制・機能を発展させて参ります。また、これまでの成果を社会に発信し、各プロジェクトやつくば地域が今後さらに輝いていくことを目指します。

今後もTGIは、つくば発イノベーションの成功事例の創出を推進し、つくば地域のイノベーション・エコシステムの形成に全力を挙げて取り組んで参ります。

2 事業活動の内容

(ア) 技術シーズの事業化支援

つくば地域の豊富な技術シーズを事業化へと導き、世界に大きなインパクトを与える成功事例を創出するべく、技術シーズの発掘を入口として、育成から出口目標まで一貫した支援を実施する。事業化の出口としては、企業への技術移転やベンチャー企業の創出・成長（IPO）を目指す。支援にあたっては、文部科学省補助事業、国際戦略総合特区制度等も活用する。支援の一環として、筑波大学と連携した人材育成支援や、企業・投資機関等へのアプローチ（売り込み、つくばへの呼び込み）も実施する。

① 文部科学省補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

本プログラムを活用し、TGI がつくば発イノベーションの創出の拠点となるべく、以下の通り運営支援を積極的に行う。

○事業化プロジェクト

社会的インパクトが大きく地域の成長とともに、国富の増大に資する事業化プロジェクト2件（「偏光 OCT—次世代 OCT 産業の創造」と「グラフェンスーパーキャパシタによる IoH 向け安全蓄電デバイスの事業化」）を推進する。特に、令和2年度は本プログラムの最終年度に当たることから、各々の出口目標の達成に向け着実にプロジェクトを推進する。

i) 「偏光 OCT—次世代 OCT 産業の創造」

目標：前眼部 JM-OCT の検査方法の普及のために、保険適用に必要な円錐角膜診断・治療及び緑内障診断・治療における有効性の確認と周知を行う。

方法：円錐角膜患者、緑内障濾過手術を受ける患者を対象として、前眼部 JM-OCT（偏光 OCT）による臨床研究を行う。

ii) 「グラフェンスーパーキャパシタによる IoH 向け安全蓄電デバイスの事業化」

目標：グラフェンスーパーキャパシタ（GSC）の事業化に必要なデバイス性能向上を達成し、製品化を検討する。

方法：GSC の事業化のために、スーパーキャパシタデバイスとしての性能向上及び工業生産技術の開発、蓄電デバイスを組み込んだ IoH デバイスの試作を行う。

○基盤構築プロジェクト

つくば地域から間断なくイノベーションを創出するため、大学・研究機関が保有する事業化有望シーズの発掘・育成と人材育成支援に取り組む。

発掘にあたっては、筑波大学、物質・材料研究機構、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構等のつくばの諸機関をはじめ、筑波大学が実施する次世代アントレプレナー育成教育（EDGE-NEXT）等とも連携し事業化の可能性が高い案件を見出す。見出した案件に対して、選定ピッチ会を実施し、山海壽之事業プロデューサーを中心に事業化の可能性の高い案件を採択する。

採択された案件には、事業計画ブラッシュアップ、事業化アイデアを顧客視点の製品とするための市場・競合・特許等調査の実施、プロトタイプ作成支援、展示会の斡旋や、企業と意見交換の場の設定といった概念実証（Proof of Concept）の段階における集中的な支援活動を行い、投資家や企業への売り込みによるマネタイズ、ベンチャー企業立ち上げ等、各プロジェクトのそれぞれの出口目標を見据えた支援を行う。

○つくばイノベーション・エコシステムの構築事業成果報告会の開催

令和2年度は5年間の「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」の最終年度にあたる。そのため、これまで事業化に向けて様々な支援をしてきた各事業化プロジェクトの成果の状況、基盤構築プロジェクトによるイノベーション・エコシステム形成に向けた取り組みについて、広く発表する機会を設ける。本会の開催によって各事業がその成長スピードを更に速め、つくば地域がイノベーション拠点としてより輝いていくことを目指す。

(イ) プラットフォーム（共創場）の構築

① つくばにおける技術相談のワンストップ窓口による支援

筑波研究学園都市の各研究機関とのネットワークを活用したマッチング支援等を通じて、研究者や企業の課題解決を実現する「つくばテクニカルコンシェルジュ（TTC）」活動を推進する。

特に、つくば地域の多様な研究成果を地域社会や産業界へ還元するために、様々な企業の技術的ニーズが TGI に集積し、研究成果との橋渡しを実現する姿を目指し、本取組をつくば地域のみならず全国的に PR していく。また、JETRO や茨城県グローバル戦略チームと連携し、国際的な活動も推進する。

② つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会の開催

筑波研究学園都市は多彩な領域で先端技術を有した機関が多数存在している。地域連携の機会強化のため、つくば市並びにその周囲の大学・研究機関、企業、支援団体、茨城県の産学官連携に携わるメンバーによって構成される「つくばイノベーション・エコシステム構築に向けた合同連絡会」を定期的開催し、令和2年1月の開催で第17回を数えることとなった。各機関の産学官連携従事者は比較的短いサイクルで異動することが多いが、合同連絡会を通じてコミュニケーションは維持されている。

スタートアップ支援などの支援施策は日々拡充されており、常に最新の情報を押さえておくことが不可欠となっている。そのため、継続して「合同連絡会」を定期的開催し、各機関間の情報共有やイノベーション創出に向けた意見交換を行う他、基礎研究・産学連携施策の紹介や知財関連情報の共有など、関係機関の協力を仰ぎながら有益な情報の提供を行っていく。

③ 交流の場の提供

つくば駅前にあるつくばイノベーションプラザや、つくば駅近隣に位置するつくばスタートアップパークの利便性を活かして、研究者と企業等との打合せや人脈づくり、ビジネスチャンスの創発等、出会いの場としての活用を図り、つくばにおける研究者と企業、学生等の交流を促進する。

(ウ) 特区プロジェクトに対する横断的な支援及びその他の活動

① 特区プロジェクトの推進による産業化支援

茨城県、つくば市と連携して、昨年度から引き続き、各プロジェクトの進捗状況を確認しながら、特区支援制度の活用促進や会議の開催・運営、広報などの支援を行う。会議の内容は、各プロジェクトの進捗を定期的に報告するものの他、茨城県・つくば市・TGIの事務担当者が集まり、全体の方向性の確認や、支援制度活用可能性のある案件の共有を目的としたものを実施する。

○会議開催予定

各プロジェクト：四半期に1回

事務担当者会議：半年に1回

② つくばライフサイエンス推進協議会（TLSK）の運営

今年度は、オープンイノベーションプラットフォームとしての役割強化を目指す。昨年度から引き続き、TLSKピッチ会と若手交流会を開催しつつ、運営体制と事業内容の見直しを図る。

○会議開催予定

TLSKピッチ会：四半期に1回

若手交流会：1か月に1回

③ つくば国際戦略総合特区成果報告会の開催

令和2年度で第2期特区計画（平成29年度～）が終了するため、これまでの特区における成果の情報発信と各プロジェクトの更なる進展を目指し、つくば特区の成果報告会を開催する。

④ プロジェクトに関する広報活動

各種ツール（パンフレット、HP）の内容を改訂する。シンポジウムや会議等で配布し、特区の事業内容やつくば地区の取組、成果を紹介する。

(エ) 情報発信活動

つくばイノベーション・エコシステム構築事業の取組みや特区プロジェクトの認知度の向上を図るため、ウェブサイトや各種イベント等を活用し、情報発信及び広報活動を行う。

① 各種展示会等への参加

連携可能性のある研究者、企業等が多く集まる展示会等に出展し、つくばイノベーション・エコシステムの構築事業や特区プロジェクトの情報発信を行う。

【出展予定の展示会等】

- ・TIA シンポジウム
- ・産業交流展 2020
- ・ハイレベルフォーラム 2020

② 広報媒体の強化

TGI ホームページの掲載内容の見直しを行うなどウェブサイトの機能強化を行う。また、随時更新を行い、最新情報を提供する。パンフレット等の広報媒体についても随時改訂を実施する。

③ 視察等のコーディネート

国内及び国外からの筑波研究学園都市への視察等の受入れを積極的に行い、筑波研究学園都市のPR、TGIの事業活動の認知度向上を図る。

3 会員の勧誘活動の推進

TGI の設立趣旨や事業活動に賛同する会員（企業、研究機関、個人等）を増加させ、TGI の活動の促進を図る。

4 法人の運営に関する事項

TGI の事業全般の企画立案、計画の策定、執行等のため以下の会議等を開催する。

- ・総会（定時総会及び臨時総会）
- ・理事会（通常理事会及び臨時理事会）
- ・経営会議